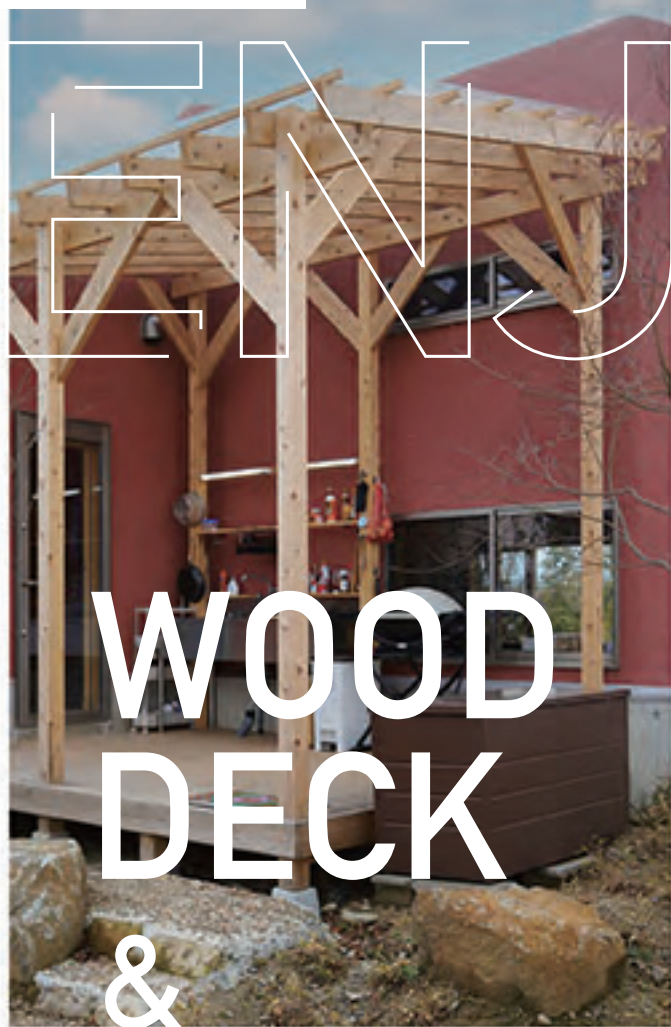
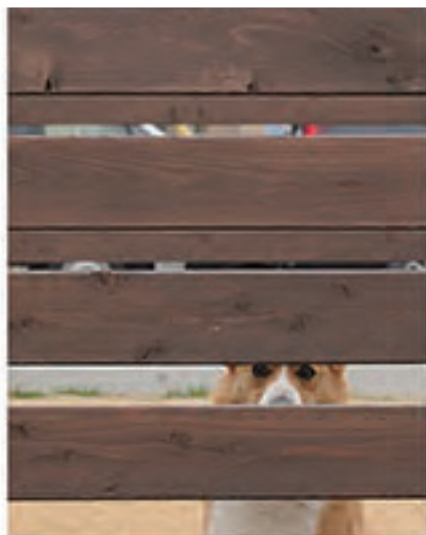




自然素材の木材でつくる

ナチュラル
&
モダンエクステリア



ウ
ツ
ド
フ
ェ
ン
ス
・
ウ
ツ
ド
デ
ツ
キ
を
楽
し
も
う



木材は、再生可能な 環境にやさしい資源

日本の国土は約70%が森林で、そのうち約40%が人工林です。この人工林がいま本格的な利用期を迎えています。二酸化炭素を吸収し炭素を固定する木材を、建築や外構等に利用することで、持続的に森林資源を活用でき、地球温暖化防止やSDGsに貢献します。国では、建築物での木材の利用を促進する法律改正をはじめ、さまざまな施策に取り組んでいます。



ウッド・チェンジとは

建築物を木造化・木質化する、身の周りのものを木に変える、木の暮らしに取り入れるなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動を指します。



詳細はこちらへ

自然素材の木材でつくる ウッドフェンス&デッキの いいところ

木材は、美しい家、
美しい街並みをつくる

木材を使った建築や外構は、「まちづくり」に調和する美しい景観を生み出します。木のフェンスやエクステリアは、安全な通学路の確保につながり、防音対策など生活環境の改善にも大きな効果があります。木材が持つ自然な色つやから感じる優しさと温もりは、街に住む人々に、美しい景観と安心をお届けします。

自由なデザインを可能にする

木材は、加工しやすい素材なので、ユニークな形にしたり、カラフルな色を塗ったりすることが可能です。狭い場所や複雑な形状の敷地の中でも、設計・施工がしやすく、高さも自由に調整できます。状況に合わせて、世界でただ一つのデザインの木のエクステリアも作ることが可能です。木のエクステリアを暮らしに取り入れましょう。



まだまだある木の魅力

木材は、断熱効果が高く、触ったときに冷たさや熱さを感じにくい素材です。また、木の香りに含まれている“フィトンチッド”は、除菌・抗菌、消臭、リラックス効果などの効果があります。さらに、木材を店舗等に用いることで、空間に付加価値を与え、愛着心を高める効果も期待できます。



木材の経年変化は、 天然素材の証

天然素材の木材は、時間とともに色をシルバーグレイに変化させていきます。一年中、日光や風雨にさらされる外構では、顕著に経年変化が起こります。海外では、このシルバーグレイは、落ち着いた色合いだと好まれます。使う人とともに年を重ねて変化していくのも木材の良さの一つです。

木と長くつきあうための メンテナンス

ウッドフェンス、ウッドデッキを長持ちさせるにはメンテナンスが不可欠です。日頃からこまめに掃除しましょう。また、湿気は腐朽の原因になるので植木鉢やプランターはときどき場所を変え、風通しをよくしてください。保護塗料は1~3年に1回ぐらい塗り直してください。



木のことを知れば、
より長く楽しめる

北海道の厳しい風雪に耐える 今村公園のウッドフェンス

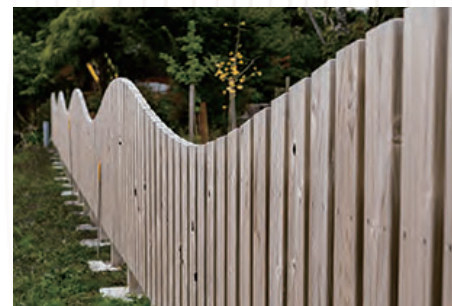
「 所在 | 北海道
施設 | 公園
設備 | ウッドフェンス
施工 | 外山建設株式会社
」



北海道、渡島半島の中央部に位置する瀬棚郡今金町の「今村公園」には、北海道産のスギを活用して建てられたユニークな形状のウッドフェンスが設置されています。完成してから2年、厳しい冬を越してきたウッドフェンスの現状を確かめました。

町の創始者の旧邸を地域の 人々が憩う公園に

今村公園は、この町の創始者の一人、今村藤次郎さんの旧邸の敷地を改修して公園にしたものです。今村公園再生プロジェクトの会の高橋さんに、ウッドフェンスをつくった理由をお聞きました。「一番の理由は、木に親しんでもらいたいということです。道南エリアにはスギの人工林がありますが、地元の人でも道産材というところまで、エゾマツ、トドマツ、カラマツを思い浮かべ、スギがあることが知られていません。せっかく地域にスギという使いやすい木材があるのだから、こんな所にも使えるよ、とPRしたいと思いました」。塀に使った木材は、すべて今金・せたなエリアのスギ材で、製材業を営む高橋さんの会社で作ったものです。



風雪に耐える頑丈な構造

今金町は、内陸性気候のため夏は気温が30℃を超え、冬は季節風が強く、積雪は2mを超えます。厳しい気候条件に耐えるための工夫を新保さんにお聞きました。「木材は、耐久性に優れたK4注入材です。竣工から2年以上経ちますが傷みも破損も見られません。通常よりも厚い24mmの板材を使い、支柱は10cm角の柱材です。塀を二重の構造にして、さらに筋交いを立てて補強し頑丈な造りにしています」。次にメンテナンスについてお聞きすると「今のところは何もしていません。しばらく様子を見て、必要があれば防腐塗料を塗布します」。



町でも注目を集めた ユニークな形状のウッドフェンス

ウェーブ状のウッドフェンスを設計・施工した外山建設株式会社の新保男さんにデザインの狙いをお聞きました。「ウェーブ状のデザインにしたのは、自然景観とマッチさせようと思ったからです。あとは、塀で公園が隠れてしまわないように高低を付け、国道を通る人の目を惹くという狙いもありました。金属製だとこの形状にするのは難しいですが、木の塀なら現場で大工さんが図面に合わせて加工できます」。ユニークな形状のウッドフェンスは町内でも注目の的となり、多くの問い合わせが寄せられたそうです。



子どもたちが遊びながら 木の良さを知る場所に

旧邸宅は改修されて「今村記念館」として公開されています。その狙いを高橋さんにお聞きました。「今村さんのお宅は、かつて町民や子どもたちが気軽に集える憩いの場所でした。子どもたちは、ここで町の歴史や自然の豊かさを学んでいたんです。もう一度、そんな場所をつくりたいと思いました。これからさまざまなイベントを企画して、子どもたちが遊びながら木の良さを感じてもらえる場所にしていきたいと思います」。今村公園は、町の歴史を知り、木の良さを感じる施設として、町の人たちに愛される場所になりそうです。

落ち着いた色合いに変化し 古民家になじむ ウッドデッキ、ウッドフェンス

「 所在 | 長野県
施設 | 住宅（古民家）
設備 | ウッドフェンス、ウッドデッキ
施工 | HUCOS 協同建設
」

長野市松代町は、歴史的な街並みが残る真田十代十萬石の城下町です。地元で建設会社を営む斉藤洋一さんは、明治初期に建てられた古民家を十数年前に買い取り、リノベーションしながら住んでいます。古民家にマッチするウッドフェンス、ウッドデッキを数年前に新設しました。

建設業者こそ率先して 国産材を利活用していきたい

斉藤さんが木の外構をつくったのは3年前、「家のリノベーションも一段落したので、前から欲しいと思っていたデッキと木の塀をつくることにしました」。木材を採用した理由は、「林業は担い手も少なく苦しい状態が続いています。我々、建設業者が率先して国産材を使っていくべきだと思います。使用したのは、飢肥（おび）杉の赤身（心材）を防腐・防蟻処理したJAS性能区分K4相当材です。飢肥杉はもともと精油分が多く外構に向いています。耐久性のある材に防腐・防蟻処理を施したので無塗装で使い木肌の色をそのまま出すようにしました」。

竣工当時

特にメンテナンスは行わず、 経年変化を楽しむ

日頃のメンテナンスについてお聞きすると「メンテナンスは今まで特に何もしていません。木は経年変化をしていくのが魅力です。この古民家もそうですが、あえて塗装はせずに木の色のままにして、その変化を楽しんでいます。よくレザーの洋服に例えるのですが、おろしたばかりよりも着古したレザーの方が体になじむし、風合いもかっこよくなるでしょう。木も同じだと思います。だから早くいい色に変化しないかなと楽しみにしています。もちろん腐朽してしまうのは嫌なので設計、施工の段階でいろいろ工夫をしています」。

柱が直に土に触れないように工夫

ウッドフェンスをつくるときに工夫したポイントをお聞きしました。「塀の柱が土と直に触れないように、土留めのコンクリートにボルトで固定しています。土留めがない部分は、廃線になった鉄道の枕木を再利用して木の柱が土に接しないようにしました。また、水は木口の部分から浸み込むので塀の上部に笠木をつけています。あとは強風で倒れないように、板は段違いにして間隔を空けて風が通り抜けるようにしました。土に直に接しないようにし、水がたまったり浸み込んだりしないように配慮すれば、木は長持ちすると思います」。

デッキ下は割栗石^{*}を敷いて防草対策

ウッドデッキをつくる際に配慮したポイントをお聞きすると「デッキの下に雑草が生えるのが嫌だったので防草シートを敷いた上に割栗石を敷き詰めました。また、野良猫がデッキの下に入りこまないよう幕板で囲っています。あとは塀と同じで、束柱が土と直に接しないよう、束石を使っています。設計で配慮したのは、材に無駄がでないようにすることです。なるべくロスがでないように配慮しながら美しく丈夫なものをつくる、それもデザインの大切なポイントだと思っています」。

^{*} 割栗石：「ぐり石」とも呼ばれ、岩石を人工的に拳より一回りほど大きなサイズに割って作られる石材のこと。

ウッドデッキは 家族やペットとの憩いの場

ウッドデッキを普段どのように活用されているのかお聞きしました。「庭仕事に疲れたとき一休みしたり、ペットと遊んだり、家族と七輪を持ち出して肉や魚を炙って食べたりするスペースになっています。設置してから気づいたのですが、ウッドデッキがあると太陽の照り返しが部屋の中まで届いて冬場は暖かくていいのですが、夏場は部屋が暑くなり過ぎます。そこで取り外しできるターフを設置しようと考えています」。斉藤さんのお宅のウッドデッキは、屋外にあるもう一つのリビングルームのように家族の憩いの場になっているようです。